

めぐみイエス・キリスト教会

2019年12月8日(日)第二アドベント礼拝
週報「通算第484号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

| | | |
|-----------|-------|---------------|
| 第一礼拝 | 毎週日曜日 | 午前10時～11時 |
| 第二礼拝 | 毎週日曜日 | 午後6時～7時 |
| 聖書の学びと祈り会 | 毎週水曜日 | 午後6時15分～7時15分 |

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年12月8日 第二アドベント礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌79「あめには栄え」 p. 108

【交読文】 No.46 詩篇第148篇 p. 915

【賛美Ⅱ】 新聖歌75「神の御子は」 p. 102

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉にかえろう」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章30節～29節(新約p. 205上段)

【祈 禱】

【説 教】 《他の多くのしるしをも》 鈴木 竜実 牧師

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 ヨハネの福音書20章30節～31節(新約p. 205)

20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。

20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

●ポイント1.ヨハネの福音書における7つのしるし

- 1.最初のしるし (水を葡萄酒に変える)創造主であると言うしるし
- 2.二度目のしるし(役員の息子のいやし)命の君であると言うしるし
- 3.三度目のしるし(ベツサイダの池の病人のいやし)命の君のしるし
- 4.四度目のしるし(五千人の給食)霊的命を与えるパンであるしるし
- 5.五度目のしるし(主の水上歩行)すべてを支配する主であるしるし
- 6.六度目のしるし(生まれつきの盲人のいやし)世の光であるしるし
- 7.七度目のしるし(ラザロのよみがえり)命の君であることのしるし

●ポイント2. ヨハネの福音書が書かれた目的とは？

※ヨハネの手紙第一1章1節～3節「神の御子」(新約p.426上段)

1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見えたもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちの言葉について、

1:2 このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父と共にあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。

1:3 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

※ヨハネの手紙第一5章11節～13節「永遠のいのち」(新約p.431下段)

5:11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。

5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

5:13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

●ポイント3.「他の多くのしるしをも」とは？

※ヨハネの福音書21章25節「ヨハネの締めくくりの言葉から」(新約p.207)

イエスが行なわれたことは、他にもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書き記すなら、世界も書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。

◎先週のメッセージの概要【見ずに信じる者】

《さて週の始めの日。主イエス様はカギを閉めて潜んでいた十一弟子の所に、突然やって来られました。しかし、その時トマスはいませんでした。

その後、トマスが戻った時に、他の弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と喜び伝えたのです。しかし、トマスは「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘の所に差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言い、心をかたくなにしたのです。

そして八日目。弟子たちは同じ室内におりトマスも一緒でした。以前と同じようにカギが掛けられていましたが、主イエス様が来られたのです。

主は、「最後の晩餐」の時に弟子たちに、預言と約束をなされました。「私はもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びを奪い去る者はありません。」と。

主イエス様はこの約束を、十一弟子全員にされたのです。もちろんトマスにもです。それだからこそトマスは、その時を待てば良かったのです。「あなたの指をここに付けて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私のわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」
「私の主。私の神。」

「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

この会話から、主がトマスの不信仰をとがめられたように感じられますが、そうではないのです。実は、ペテロと他の弟子たちでさえ、主を見なかったら信じることは出来なかったのです。これが人間です。それでは「見ずに信じる者」とは、いったい誰を指すのでしょうか。ペテロは紀元63年頃にローマで書き記した第一の手紙において、こう述べています。

『あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、栄えに満ちた喜びに踊っています。』

この言葉は特に、現在の私たちにも向けられた言葉でもあるのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は12月15日です。また次回「聖書の学びと祈り会」は、12月11日(水)に行ないます。12月29日は感謝礼拝と食事交わり会となります。